

# みる つくる がたる

千葉県立美術館報

VOL. 20 No. 1

(通巻70号)

平成5年6月1日発行

編集・発行人 白石竹雄

〒260

千葉市中央区中央港1丁目10番1号

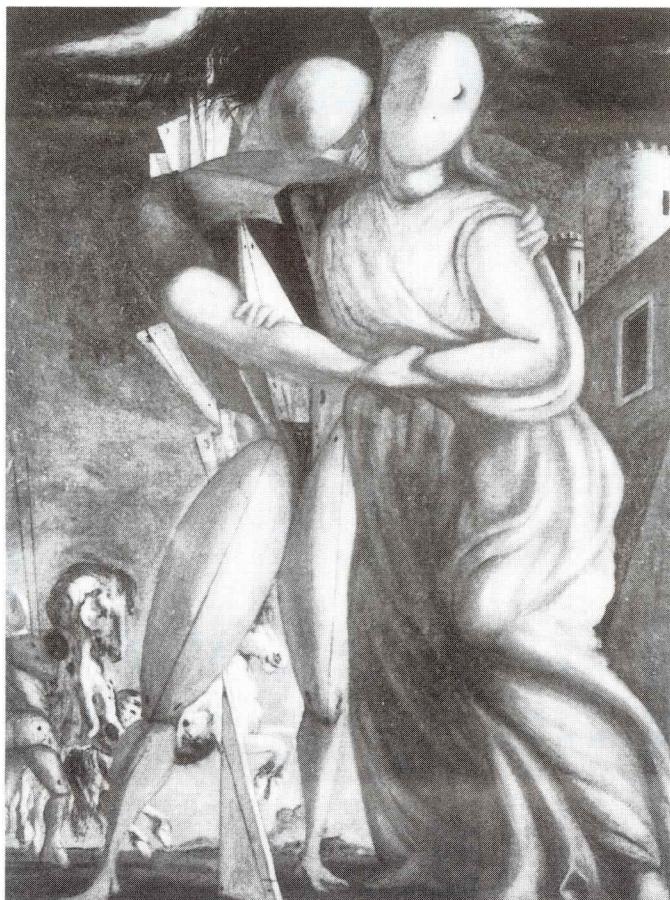
☎043-242-8311(代表)

ジヨルジヨ・デ・キリコ

「ヘクトールとアンドロマケ」

油彩・キャンバス 一九二四年

(特別展「デ・キリコ展」出品)



この作品は古代ギリシャの詩人ホメロスが作者とされる叙事詩「イリアス」にちなんだ作品です。トロイア戦争に出陣する英雄ヘクトールと妻アンドロマケが別れを惜しんでいる場面を、重苦しい空の下に神秘的な二体のマネキン人形として画面いっぱいに描いています。その不安と緊迫した雰囲気を左奥の馬と戦士によつてかもし出し、さらに、画面右手の塔によつて謎めいた情感を漂わせています。

キリコは「謎こそ人生で愛するに足る唯一のもの」というニーチェゆずりの信条によつて、神秘的で謎めいた独自の世界を確立するため、この人間でも人工物でもない、マネキン人形を好んで描きました。しかし、一九一九年にティツィアーノの絵を見ていた時「突然偉大な絵画は何であるかを啓示された」とし、古典絵画の研究を始めました。この作品はキリコが確立した独自の世界と伝統的なマチエールをあわせ、新しい芸術を生み出そうとした、キリコの記念碑的な作品です。

(三浦拓郎)



「自画像」1920

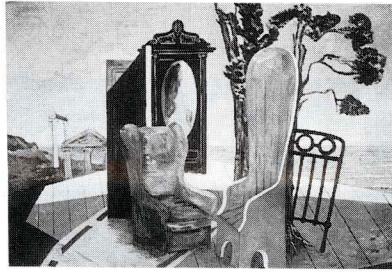
今世紀イタリアを代表する画家ジョルジョ・デ・キリコ(Giorgio de Chirico)一八八八(一九七八)は、イタリア人を両親として、ギリシャのヴォロスで生まれました。アテネで絵を学び、父の死後はミュンヘンに移り絵の勉強を続けるうちに、ドイツマン派の画家アーノルド・ベックリンの幻想的な作品に魅力影響を受け、ベックリンの様式にならって油絵を描きました。また哲学者ニーチェにも傾倒し、一九一一年のイタリア滞在の際には、ニーチェがイタリアの町から感じ取った「秋の午後の限りなく孤独な詩情」を絵画で表現すべく、『イタリア広場』の連作に入り、時間の静止したようなひとけのない広場、不自然に長い影を引く彫像、異常な遠近法といった、キリコ独自の神秘的な雰囲気が漂う作品を作り出しました。これらの作品をパリで発表

## 県民の日 記念事業

み  
る

# 特別展 ・ キ リ コ 展

’93・6・5(土)～7・11(日)



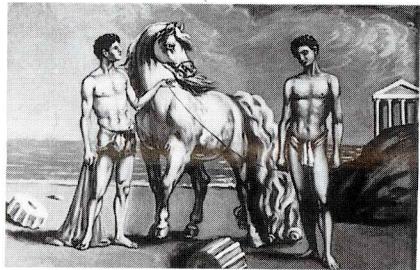
「海辺の家具」1927頃

したキリコは、ピカソや詩人アボリネールらの知遇を得、名声を確立し、また関連のない事物を組み合わせる彼の手法は、後のシュールレアリズム絵画の発展に大きな影響を与えた。

一九一五年、前年勃発した

第一次世界大戦に応召しイタリアに戻り、フェラーラで兵役につきました。その後ローマに配属換えとなり、ローマの美術館で見た古典絵画から

強い啓示を受け、その研究に取り組みました。さらに積極的に個展や執筆活動を行い、当時のイタリアにおいて中心的な作家として活躍しました。



「ディオスコロイ」1934頃

世界をつくりだすと模索していたため以前のキリコの作品しか認めようとしないシュールレアリスト達とは相容れず、キリコは彼らから「シュールレアリズムの先駆者にして裏切者」という評価を受け、決別しました。

ところがキリコ自身は、以前の作風も捨てず、それにのつとつた作品も描き続けました。

このため同じ作家が描いたものとは思えない作品が、同時に生み出されることになりました。キリコが「謎の画家」と呼ばれる所以です。

### ◆展覧会の内容について

かつてキリコを絶賛したシユールレアリズムの芸術家たちは、一九二〇年以降、キリコの古典回帰を批判し、それ以前の作品しか評価しない態度をとりましたが、この評価は大きな影響力をもち、以後、キリコの芸術を理解する上で一つの基準となっています。

今回の特別展では、キリコが古典絵画の美に魅せられ、新たな作風の構築に向かう、一九二〇年代以降の活動に焦点を当て、二〇一五年代までの油彩作品を中心に、版画、



「甲冑をつけた自画像」1948



展览会案内

▼房総の美術家シリーズ(23)  
秋山逸生展

▼第十七回  
千葉県移動美術館

## 新收藏作品紹介



三谷十糸子「魚紋」

特別展  
ミレーと浅井忠の出会いー  
バルビゾン派と日本  
ミレー、コローに代表され

ミレー、エローに代表される  
るバルビゾン派の作品は、明  
治九年に工部美術学校の教授  
として来日したイタリアの風  
景画家、ファンタネージによ  
つて紹介されました。その後  
も展覧会や画集等を通じて様  
々な形で紹介されたバルビゾ  
ン派の芸術は美術界はもとと  
り文学、思想など多方面に影  
響を及ぼしました。

本展では、「日本に将来されたバルビゾン派作品」「バルビゾン派受容に関わる日本洋画の作品」をテーマに、バルビゾン派の作品と、浅井忠黒田清輝などの日本洋画家の作品を展覧し、バルビゾン派とわが国近代洋画との結びつきを浮き彫りにします。

なお、今回の展覧会は、山梨県立美術館、福島県立美術館、千葉県立美術館の三館合同の企画により実施されるものです。

会期) 九月四日(土) -  
十月十一日(月)

工芸家秋山逸生（一九〇一—一九八八）は、東京に生まれ、大正期から市川市に居住し、昭和四十五年「芝山象嵌」の技法が千葉県無形文化財に指定され、六十二年には「木象嵌」の技法で国の重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定されました。

本展覧会では、逸生の作品約五十点を展覧し、その藝術を回顧します。

（会期）十一月二十日（土）～十二月二十四日（金）

開催にあたっては、親しみやすい貝象彫刻を通して、心のうるおいと豊かさを育む機会とする目的に、昭和五十九年度に第一回展を開き、以後ほぼ隔年で実施してきました。

第六回展は、第五回展の実績をもとに「21世紀への飛躍」をテーマに、次の通

優れた美術作品を、より多くの方々に鑑賞していただくため、県内二会場を巡回する展覧会を開催します。日本画、洋画、彫刻、工芸、書、版画の各分野の作品を本館の収蔵作品を中心として展示します。今年度の会場と会期は次のとおりです。

本展覧会では逸生の作品  
約五十点を展覧し、その芸術  
を回顧します。

「現代日本具象彫刻展」は、全国規模で公募した作品を審査し、入賞・入選作品を選定する、コンクール形式の展覧会です。

開催にあたっては、親しみやすい具象彫刻を通して、心のうるおいと豊かさを育

む機会とすることを目的に、昭和五十九年度に第一回展

を開き、以後ほぼ隔年で実施してきました。

第六回展は 第五回展の  
実績をもとに「21世紀への  
飛躍」をテーマに、次の通

り開催します。

優れた美術作品を、より多くの方々に鑑賞していただきため、県内二会場を巡回する展覧会を開催します。日本画、洋画、彫刻、工芸、書、版画などの各分野の作品を本館の収蔵作品を中心として展示します。

今年度の会場と会期は次のとおりです。

◎ 陸沢ゆうあい館（長生郡）  
十一月十七日（水）～十一月三十日（火）

◎ 山田町公民館（香取郡）  
十二月三日（金）～十二月十六日（木）

▼ 応募資格：国籍、経歴、年齢を問いません。

▼ 応募作品・規格：具象的傾向の彫刻作品、縦1.8m、高さ2.0m、重量2.0トン以内（台座を含む）

▼ 作品搬入日：平成五年十二月十一日（土）～十二日（日）

秀賞二点、入選約六十点

▼ 会期・会場：平成六年二月五日（土）～二月二十七日（日）

千葉県立美術館

◎ 詳細は千葉県立美術館まで

平成四年九月一日から平成五年五月三十一日までに収穫された作品を紹介します。

（日本画）**購入**

浅井 忠作  
 「農耕の図」（着彩・一九〇）  
 田村宗立作  
 「白衣観音」  
 「洋画」  
 麻生蓉子作  
 「出を待つ」  
 椿 貞雄作  
 「夏の風景」  
 伊藤順一作  
 「里」  
 畠中陽一作  
 「アルミニネーションB」（アクリル・一九九）  
 王 軍作  
 「蘇州水郷」（油彩・一九九）  
 行木正義作  
 「グレーの冬」（アクリル・一九九）  
 近藤南海子作  
 「コンボジションB」（油彩・一九九）  
 石井光楓作  
 「タコマ」（水彩・一九五）  
 「アーブル市・場末」（水彩）  
 「荷揚げ」（水彩）  
 櫻田精一作  
 「白い舟」（油彩・一九五）

ラヴィ工作 「モレスティ風景」(油彩)  
 「モレスティ風景」(油彩)  
 「たそがれ」(水彩・八五)  
 「彫刻」  
 長谷川昂作 「朝」(木彫・一五九)  
 「工芸」 横山朝陽作  
 「草花文搔落花瓶」(陶芸)  
 川上祥三郎作  
 「黄釉彫文花器」(陶芸・一五六)  
 宮之原謙作  
 「彩地盛蓮葉文壺」(陶芸・一五五)  
 浅井 忠作  
 「草花盆」「桔梗文花瓶」「イン  
 カ文湯呑」(いずれも一五五)  
 「書」  
 高澤南総作 「春風秋月」(一九一)  
 「版画」  
 深沢幸雄作 「刻印」(一九一) 他二十三点  
 奇贈

## 【日本画】

三谷青子氏より

三谷十糸子作

## 【洋画】

(一九八)

飯田祐三氏より

チャーレズ・ワーグマン作

「七里ヶ浜風景」(油彩)

藤井外喜雄氏より

「シャルトル」(油彩)

飯島賢治氏より

石井光楓作

「ブルタニュ」(油彩)

行木正義作

「作品G」(油彩)

櫻田精一作

佐善アキ氏より

「追憶」(油彩)

川瀬巴水作

「蝶貝象嵌小箱」(木工)

「版画」

「工芸」

「追憶」(油彩)

秋山逸生作

「蝶貝象嵌小箱」(木工)

「版画」

「工芸」

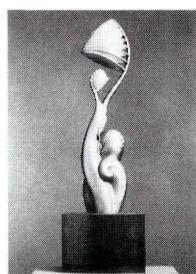
「追憶」(油彩)

川瀬巴水作

「研究資料」

「流鏑馬」(木工)

山室百世「銅鑄萌ゆる力置物」



## 【工芸】

山室和子氏より

山室百世作

川村幹也・佐藤雅子氏より

河村蜻山作

「銅鑄草花置物」(銅鑄)

「長方皿 雨・風・晴」(陶芸)

「草花紋搔落皿」(陶芸)

「書」

小川栄次郎氏より

「叙情」(元兎)

高澤雅枝氏より

「高澤南総作

「藝に游ぶ」(元兎)

高澤南総作

「保管換」

「日本画」

「洋画」

「登龍門」(絹本)

「版画」

「工芸」

「追憶」(油彩)

「蝶貝象嵌小箱」(木工)

「版画」

「工芸」

「追憶」(油彩)

川瀬巴水作

「研究資料」

「流鏑馬」(木工)

## 美の扉

千葉県立美術館に収

蔵されることになった

「追憶」と「白い舟」

について。

「追憶」の作品は元禄年に描

いたものである。私が初めて

パリに行つたのは元禄年で一

年程の滞在で、其の間フラン

ス、イタリア、スペイン、ドイツ

イギリス、スイスなどヨーロ

ッパの美術館を中心に名画を

尋ねて廻る旅であったが、初

めて生の作品から受けた感動

にはそれまでの知識が如何に

表面だけのものであつたかが、

思い知らされるのであつた。

絵画の持つ力には魂が、内面

が強調に表現されなければな

らないと思われた。描くこと、

それは表現することなので、

対象には客観的に普遍的に描

くものがあるのではなくて自

分の内なる美により対象に美

が見えてくるのである。印象

派の画家達の絵で同じ風景、

場所を複数の人が描いていな

がら、表現はそれぞれ違つて

いて、受けけるインパクトは変

わらない。グループで写生に

行つたりモデルを描いたりす

ると直ぐ描ける人と描けない

人がある。対象に美がめな

いからだろ。対象の美は内

なる美、それは己にあるのだ

から向うからは美だと説いか

けてはくれない。表現するの

には対象とぶつかって火花が

散るようには感動しなければ描

けないものである。制作に行

き詰まつたり、迷つたり、感

動しなくなつたりした時には

優れた作品を見直すことによ

つて、発見や刺激や感動が蘇

つてくる。よく旅に行つたり、

外国に行くのは常に感受性を

と希望を抱いて仲間と共にフ

ランスに向う内なる心を表現

しようとして描いた。既にパリ

の空を翔び、遙か下にはモン

マルトルの丘が見え、エッフ

エル塔が聳えて芸術と歴史を

秘めたパリの街が広がつてい

る。ここに描かれた街景のそ

れぞれは実景のものとは違つ

ている。この作品は全く同一

の構図でもう一枚描いている。

別のものでは飛翔している馬

の顎が後ろを振り向いた形に

した。これは仲間を気遣う内

面の気持ちを表現して画面に

ムーブマンを持たせてみた。

「白い舟」は利根川沿いの沼

を描いた。ここは野田の対岸

茨城県にある沼のある広大な

湿原である。この沼を開発し

て街の活性化にしようとする

勢力と、自然保護の風致区に

して開発から守ろうとする勢

力とが拮抗している。近年、

この沼に白鳥が渡来て、遠

くから見物の人が来ている。

春の息吹きが聴えるよう

なつた頃、沼に出掛けたみた

ら小さな白い舟が岸辺に繩が

っていた。都會から移つてき

た少年の舟であろうか。後ろ

の土手の陰では開発のブルド

ーザーが高い音を立てていた。



「白い舟」1985

# ごあんない 実技講座(6月以降)

## 情報資料室だより



彫刻講座

講師	会期	会期
定員	10月19・23・27	10月19・23・27
締切	10月28日(木)	10月28日(木)
講師	戸田健夫氏	戸田健夫氏
定員	30名	30名
会期	8月3・4・5日	8月3・4・5日

講師	会期	会期
定員	7月23・24・25・28	7月23・24・25・28
締切	7月29・30・31日	7月29・30・31日
講師	渋谷三朗氏	渋谷三朗氏
定員	15名	15名
会期	11月2日	11月2日

講師	会期	会期
定員	10月5日(火)	10月5日(火)
締切	10月5日(火)	10月5日(火)
講師	中村象閑氏	中村象閑氏
定員	25名	25名
会期	12月1・2日	12月1・2日

### 【美術館実技講座】

#### ◆洋画講座(1)

経験者を対象に、人物、静物などをモチーフに、水彩画の技法やさまざまな表現方法について学習します。

講師	会期	会期
講師	11月29・30・31日	11月29・30・31日
講師	11月2日	11月2日
定員	26名	26名
会期	11月27・28日	11月27・28日

#### ◆書芸講座

経験者を対象に、書の歴史をはじめ、漢字の臨書を中心にお学習します。

講師	会期	会期
講師	11月30日	11月30日
定員	22名	22名
会期	12月1・2日	12月1・2日

#### ●寄贈図書・図録の御紹介

美術評論家の中村傳三郎氏から平成三年度に統計、昨年度も図書44冊、図録357冊、雑誌類61冊、その他の貴重な資料を頂きました。主なものは次のとおりです。

図書	「田村孝之介画集」
「清水多嘉示作品集」	「平櫛田中彫琢大成」
「岡鹿之助画集」	「鹿子木孟郎展」
「中彫琢大成」	「個の創意」
「平櫛」	「富水直樹」
「鹿子木孟郎展」	「田中彫琢大成」
「個の創意」	「鹿子木孟郎展」
「富水直樹」	「鹿子木孟郎展」
「鹿子木孟郎展」	「田中彫琢大成」
「田中彫琢大成」	「鹿子木孟郎展」

#### の美術

17 「シユールレアリスム宣言」

スム

という伝説

「シユ

ルレアリスムの展開

「シユ

ルレアリスムの思想

「シユ

ルレアリスムの資料

ほか

の美術

17 「シユールレアリ

スム

の美術

17 「シユールレアリ